

予 算 要 求 資 料

令和4年度当初予算 支出科目 款：教育費 項：保健体育費 目：学校健康教育費

事業名 コロナ禍における「生理の貧困」支援事業費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

教育委員会 体育健康課 学校保健係 電話番号：058-272-1111 (内 3592)

E-mail：c17769@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 4,820 千円 (前年度予算額：0 千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要求額	4,820	0	0	0	0	0	0	0	4,820
決定額									

2 要求内容

(1) 要求の趣旨 (現状と課題)

新型コロナウイルス感染拡大の影響により、経済的な理由で生理用品を購入することが難しい「生理の貧困」と呼ばれる問題や、ネグレクトにより生理用品を手にすることができない児童生徒がいることが指摘されている。

しかし、困っている児童生徒がどれだけいるのか、またどのような支援が必要なのか把握することは難しいのが現状である。

(2) 事業内容

県立高等学校及び県立特別支援学校に、生理用品を購入し、トイレなど人目を気にしないで持っていける場所に設置をする。また、生理用品の設置場所に相談窓口を紹介するカードを添えることで、支援を必要とする児童生徒のサポート体制づくりにつなげていく。

(3) 県負担・補助率の考え方

県負担 (10/10)

- (4) 類似事業の有無
無

3 事業費の積算内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
消耗品費	4,790	生理用品購入費
役務費	30	相談窓口紹介カード印刷代
合計	4,820	

決定額の考え方

4 参考事項

(1) 各種計画での位置づけ

子供・若者育成支援推進大綱(令和3年4月子ども・若者育成支援推進本部)

2 困難を有する子供・若者やその家族の支援

「子供の貧困問題への対応(教育の支援)」では、学校で生理用品を必要とする児童生徒への対応がなされるよう教育委員会等に対し促す。」と明記された。

(2) 国・他県の状況

全国的な問題として取り上げられたため、他県でも生理用品の支援を進めている。

(3) 後年度の財政負担

令和5年度以降も、令和3年度と令和4年度の使用実績から、必要となる量の購入を支援していく必要がある。

(4) 事業主体及びその妥当性

県立高等学校及び県立特別支援学校で使用する保健衛生物品であることから、設置者である県が負担することが妥当である。

事業評価調査書（県単独補助金除く）

- | |
|--|
| <input type="checkbox"/> 新規要求事業 |
| <input checked="" type="checkbox"/> 継続要求事業 |

1 事業の目標と成果

（事業目標）

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか
 各学校の女子児童生徒数に応じた数の生理用品を購入し、貧困やネグレクト等で困っている児童生徒に必要な数が行き届くよう、継続的に支援する。

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前 (R)	R2年度 実績	R3年度 目標	R4年度 目標	終期目標 (R)	達成率
						%
①						%
②						%

○指標を設定することができない場合の理由

コロナの感染拡大が原因で生理用品を購入できない児童生徒やネグレクトにより生理用品を手にすることができない児童生徒の数を正確に把握できないため。

（これまでの取組内容と成果）

令和 2 年度	
令和 3 年度	指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___%
令和 4 年度	指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___%

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

<ul style="list-style-type: none"> ・事業の必要性（社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断） 3：増加している 2：横ばい 1：減少している 0：ほとんどない 	
(評価) 3	「生理の貧困」については、全国的な問題となっており、生理用品の支援は必要である。
<ul style="list-style-type: none"> ・事業の有効性（指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか） 3：期待以上の成果あり 2：期待どおりの成果あり 1：期待どおりの成果が得られていない 0：ほとんど成果が得られていない 	
(評価) 2	生理用品を人目のつかない場所に設置し、困っている生徒が自由に持っていけるようにしたことで、以前より使用量が増えている。
<ul style="list-style-type: none"> ・事業の効率性（事業の実施方法の効率化は図られているか） 2：上がっている 1：横ばい 0：下がっている 	
(評価) 2	必要経費を各学校に令達することで、学校の実情に応じて購入を進めることができている。

(今後の課題)

<ul style="list-style-type: none"> ・事業が直面する課題や改善が必要な事項 必要な数がわからないため、不足した場合は、あらためて対応を考える必要がある。
--

(次年度の方向性)

<ul style="list-style-type: none"> ・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか 令和3年度実績をもとに、継続的な支援事業として位置づけていく。
--

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

組み合わせ予定のイベント又は事業名及び所管課	
組み合わせる理由や期待する効果 など	